

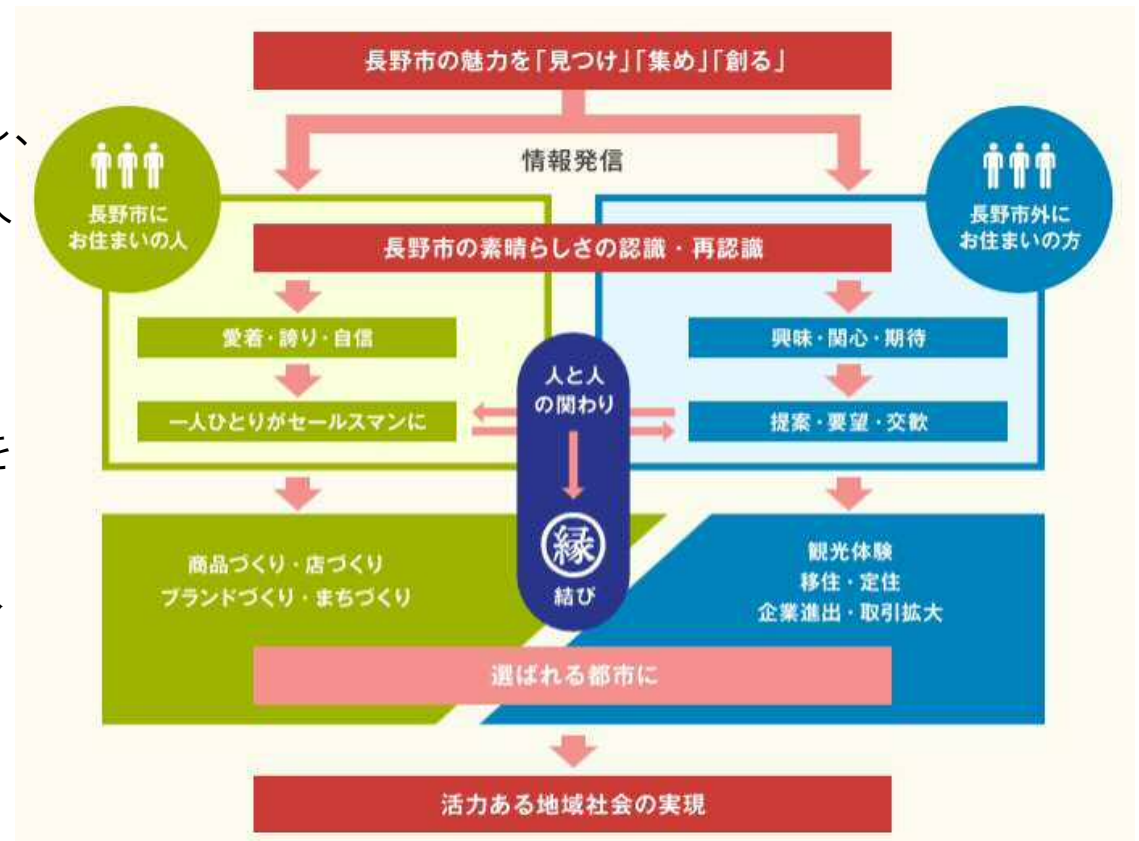
# ながのシティプロモーションの今後の方向性について（案）

ながのシティプロモーション実行委員会	
H30. 2. 13	資料No. 5

## 1-1 これまでの取組①

1

魅力と活力に満ちた長野市を実現するため、長野市の魅力を掘り起こし、磨き上げ、市民をはじめ広く全国の人に知っていただき、「選ばれる都市」となることを目指して、「ながのシティプロモーション推進プラン」を平成25年1月に策定し、官民一体となった実行委員会を組織して「シティプロモーション」に取り組んできた。



ながのご縁を **縁** 信都・長野市

## 1-2 これまでの取組②

2

2013年から2017年まで

### ●取組（魅力資源のツール・コンテンツの充実と発信）

- キャッチフレーズ・ロゴマーク、P V の制作・管理（実行委事業）
- 専用ホームページ運用（実行委事業）
- 小学校4年生向け「ワクワクながの」作成（実行委事業）
- 魅力発見・提供事業（ナガラボ）（市事業）
  - ✓ 特色ある活動をしている人・ものづくり等取材して発信
- 長野市歴史動画（アーカイブ化）（市事業）



### ●組織

- ながのシティプロモーション実行委員会（関係機関の代表者40名）
  - ✓ 地元関係機関と長野市が一体となり、シティプロモーション事業を企画、運営、実施
- 長野市シティプロモーション推進本部（庁内組織）

## 問題点

### ●取組

共通のツール・コンテンツは増えてきたが、発信者側からの一方通行的な紹介に留まっており、認知度の向上、愛着の醸成に向け途上の段階にある。

### ●組織（H28.3 財政援助団体等監査における指摘）

官民一体の組織であるものの行政主導で事業が展開され、実行委員会は単なる承認機関。団体の代表者の集まりであり、事業推進に向けて議論が深まらない。

### ■ワーキングチームでの議論

(平成28年11月29日、平成29年3月23日、7月25日、8月9日)

<p>●取組</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>➢地域定着の促進のため、市民意識の醸成に息長く取り組むことが必要</li><li>➢若者に対するプロモーションが必要</li><li>➢絵葉書等の個々の事業はやめ、官・民の発信のトーンの統一を図ったり、まとめる役割を担うべき</li><li>➢移住検討中等の人が安心できる、具体的な情報発信（暮らしやすさ）</li><li>➢紙よりもWeb中心の情報発信とすべき</li><li>➢市民が集まって地域の魅力を語り合う場を設けることで、SNSによる市外への発信につながる</li></ul>
<p>●組織</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>➢行政が中心に進め、産業界等がバックアップしていく形が望ましい</li><li>➢民間企業は利潤追求して税金を納めることも社会貢献 官に対して提案したり、メリットがあれば協賛等は可能</li><li>➢実行委員に一律に費用負担を求めることは難しい</li><li>➢共通ツールや相談のチャンネル（行政と民間との橋渡し）は必要</li><li>➢行政の都合での組織ととられない、議論しやすい組織が求められる</li><li>➢実行委員会は各団体のシティプロモーションの取組のとりまとめ役</li><li>➢各団体の代表が集まる実行委員会はお墨付きにはなる</li><li>➢実行委員会では行政でできない、個人や事業者などの紹介が可能</li></ul>

### ■「若者との協働によるブランド力向上に向けた調査分析等業務」

平成28年度 実行委事業として実施

（「長野地域出身で大都市圏等在住の若者」及び「長野地域外出身で長野地域在住の若者」を対象としたWebアンケート、グループインタビューに基づき、今後の方向性等を検討）

#### ●今後の取組

（方向性）

- 若者との協働により、若者が発見した魅力を発信・拡散することが必要
- 高校生を巻き込んだ魅力発信や将来のオピニオンリーダーの育成
- 長野地域の暮らしやすさを高頻度で発信すべき

（手法）

- 各SNSの特性を活かした発信
- リアルな交流の場の設定

### ■清泉女学院大学との連携によるフリーペーパーの作成

平成28年度 市事業（ナガラボ）の一環として実施

（人間学部2年生の講義・実習の中で、市の魅力を取材して記事作成）

（学生の感想）

- 取材先で「まち歩きを楽しんで」と声を掛けられ、住民のまちへの愛を感じた
- これからも日常の気づきや魅力を自分らしい形で発信したい



## 2-3 今後の方向性の検討③

5

### ■市民と一緒に魅力を発信・創出するためのきっかけづくり ～「ナガラボ地元編集塾」の開催～

平成29年度 市事業（ナガラボ）の一環として、市民参加型事業の種まきを始める

#### ○取材、写真、記事作成を学ぶ講座（5回開催）

実際に取材して記事を作成

→発表会で発表

→Webで記事を公開



➢5回で、のべ146人が参加

➢受講者によるFacebookグループの設置

➢ツイッターのリアクション いいね数:230、リツイート数:59

➢講師と受講者の縁で、大岡地区にて、地域づくりを考えるパネルディスカッションを開催

#### ○魅力の創出を学ぶ講座（3回開催）

（SNSでの発信、地域×企業、県立大）



#### ○意見交換会

（ナガラボの取材にご協力いただいた方や講座受講者等が集合、意見交換）

#### 第1期事業（2013～2017）

これまでの取組を「共通ツールの整備」として位置づけ

- ・ 一方的に発信するのではなく、発信に関わる人を増やし、魅力の拡散や新たな魅力の創出につなげたい
- ・ 行政の責務を明確にするとともに、臨機応変に対応できる体制としたい

#### 第2期事業（2018～2021：第五次総合計画前期基本計画）

目指す姿

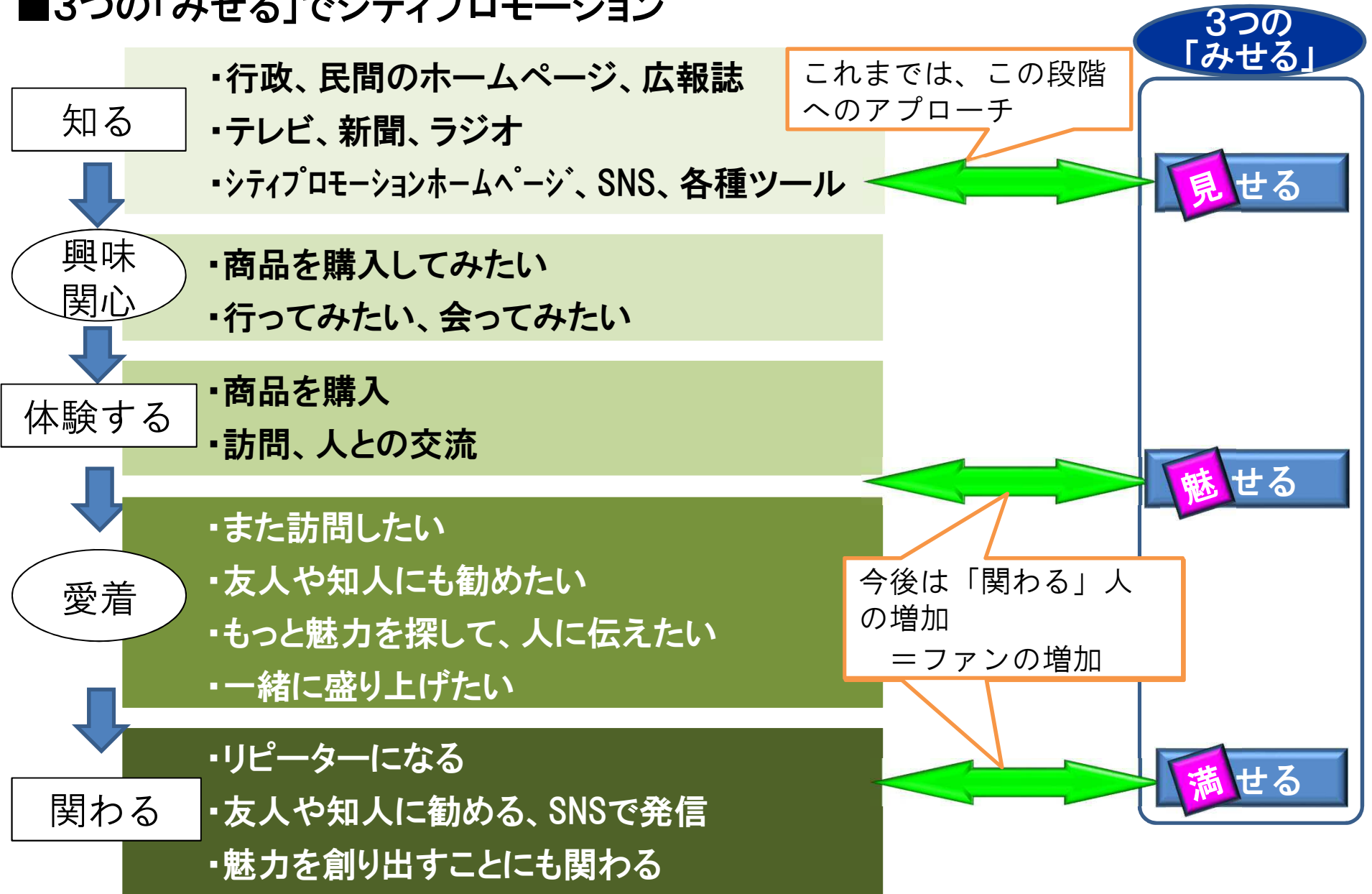
“幸せとを感じるまち ながの”のファン増加

実施主体

市が主体となり、市民参加により推進



## ■3つの「みせる」でシティプロモーション



3つの「みせる」

見せる

- 情報を見聞きし、魅力を知る
  - ・行政の取組
  - ・地域資源(自然、文化、食等)
  - ・都市機能

魅せる

- 実際に購入、訪問、体験、交流し、魅力を体感する
  - ⇒ファンをつくる

満せる

- ファンになった人が、ともに魅力を発信したり、創り出すことに関わったりする

【具体的な取組内容・例】

- 行政情報の積極的な発信
  - ・全部局・所属の発信がシティプロモーション
  - ・横串を刺した市魅力の発信
- 地域、団体、発信力のある人との連携
  - ・各地域や団体、発信力のある人による魅力の発信を、シティプロモーションSNS等で紹介
- ターゲットを絞った発信
  - ・地域愛着心醸成(小学生向け資料配布等)
  - ・若者への発信(SNSによる就職イベント等)
  - ・移住促進(暮らしやすさPR)

- お試しでの、体験や人との交流の機会提供
  - ・本市の人物や風景、ものづくり等の魅力の発信について、実践的に学ぶ講座
  - ・学校における地域をフィールドとした学習との連携
  - ・ふるさと納税のPR

- 市民参加による魅力発信・創出
  - ・市民自身による、SNSでの発信
  - ・魅力創出のきっかけとして市民が意見交換
  - ・市民が参加した、新たなプロモーションビデオの企画制作



### ■全国のファンの状況

#### 地域ブランド調査結果

認知度 2017年：56位

魅力度 2017年：86位

観光意欲度 2017年：86位

→ **2021年に、各50位以内を目指す**

※第五次総合計画前期基本計画 計画推進重点テーマ2

### ■市民のファンの状況

「知人や友人などに地域の魅力を伝えている」市民の割合

2016年：35.7% → **2021年に、5ポイント以上の上昇を目指す**

※第五次総合計画前期基本計画 アンケート指標

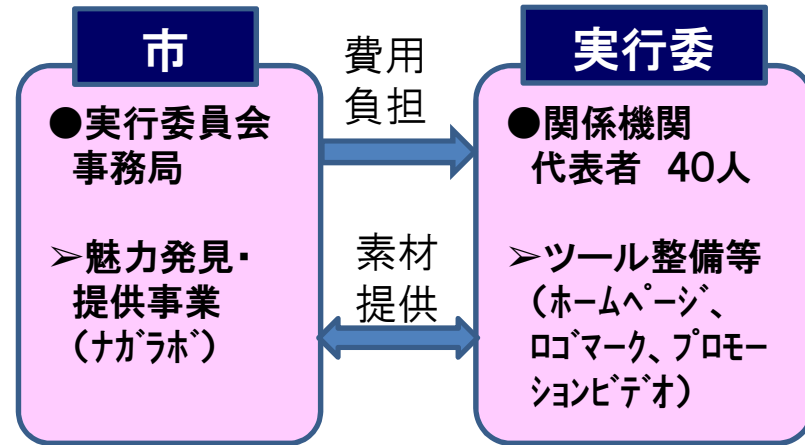
# 5 目標達成に向けた推進体制（案）

## 2017年まで

- 「ながのシティプロモーション実行委員会」(関係団体代表者40人)により、官民一体で事業実施を目指す。

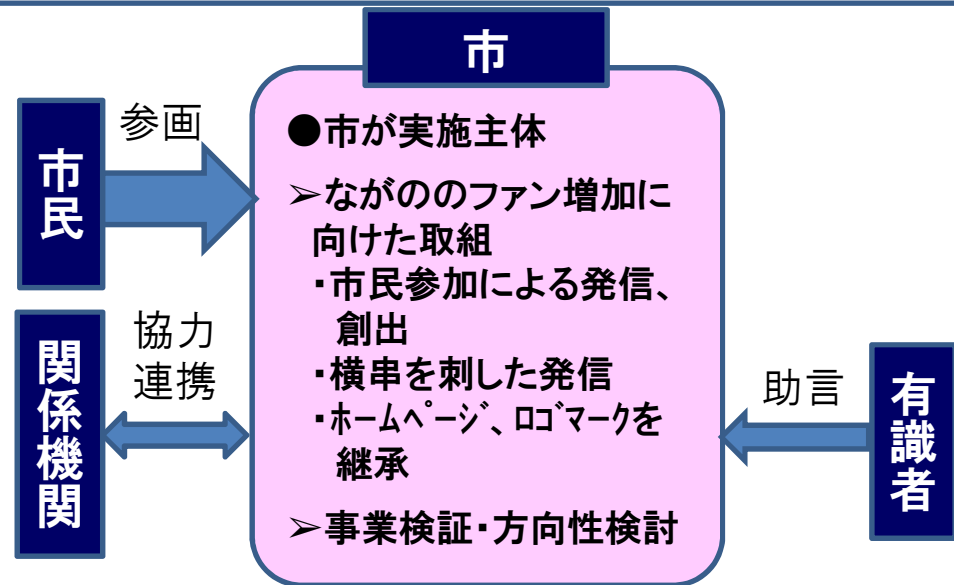
### <課題>

- ✓実際には、市が費用を全額負担。
- ✓承認機関となっており、官民連携が進んでいない。
- ✓一方通行的な情報発信に留まる。



## 2018年~2021年

- 行政(市)が実施主体となり、部局横断で全庁をあげて取り組む。
- 市民の参画を得て、魅力を発信・創出する。
- 実行委員会は発展的に解散した上で、事業に応じて市と関係機関とで協力連携を図る。
- 有識者の助言を得て、事業の検証・方向性の検討を行う。



## 6 今後のスケジュール（案）

時期	長野市役所	実行委員会
2月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 新年度機構改革案公表</li><li>・ 新年度予算案公表</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 実行委員会会議</li></ul>
3月		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 会計監査</li><li>・ 実行委員会 事業報告、決算報告（書面決議）</li><li>・ 実行委員会解散（3月31日付け）</li></ul>
新年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 実行委員会から残余財産引継ぎ</li><li>・ 新体制での事業実施</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 長野市へ残余財産引継ぎ（解約利息を含む）</li></ul>